

統合開発環境CubeSuite+ ご使用上のお願い

CubeSuite+ の使用上の注意事項を連絡します。

- ファイルの保存時にエラーE2000003が発生した場合の注意事項
- RL78/G14グループマイコンでサブクロック動作時の高速オンチップオシレータ停止に関する注意事項
- データフラッシュメモリ読み出し時にプログラムをステップ実行する場合の注意事項

1. ファイルの保存時にエラーE2000003が発生した場合の注意事項

1.1 該当製品

- RL78,78Kファミリ用Cコンパイラパッケージ (統合開発環境つき)
- RXファミリ用C/C++コンパイラパッケージ (統合開発環境つき)
- V850ファミリ用Cコンパイラパッケージ (統合開発環境つき)
- 無償評価版CubeSuite+

上記のうち、CubeSuite+ 共通部分 V1.01.00 ~ V2.00.00である製品。

1.2 内容

エディタで開いているファイルの保存時に、エラーE2000003が発生すると、ファイルサイズが0になり、ファイルの内容が消えてしまう場合があります。

1.3 回避策

1.3.1 ファイルの保存方法

エディタで編集した内容は、必ず、以下のいずれかの機能を使用して保存してください。

- 「編集」メニューの「*** を保存」を選択 (注)
- 「保存」ボタン
- ショートカットキー (Ctrl+S)
- エディタパネルの「***」タブを右クリックして「*** を保存」を選択 (注)

注: *** はファイル名が入ります。

なお、編集した内容を保存せずに、CubeSuite+ の終了もしくはエディタパネルを閉じると、保存確認メッセージが表示されます。この確認画面で保存をした場合に、本問題のエラーが発生すると、エラーダイアログボックスを閉じる際に、エディタも閉じられるため、1.3.2項で示す方法でファイルの内容を復帰させることができなくなります。そのため、エディタで編集する際は、上記の方法でファイルを保存するようにしてください。

- 1.3.2 ファイルの保存時にエラーE2000003が発生した場合の回避策
- 保存時に、エラーE2000003が発生した場合には、エクスプローラでファイルサイズを確認してください。
- もしサイズが0になっている場合は、以下の手順でファイルの内容を保存してください。

注意: エディタパネル上で、Ctrl+A のショートカットキーまたはマウスを用いて大量の内容を選択しないようにしてください。

- (1) 次の処理を行い、CubeSuite+ が使用するホストマシンのメモリ使用量を減らしてください。
 - ビルドメニューで、「ラピッド・ビルド」をOFFにする。
 - デバッグ・ツール接続時には、デバッグ・ツールを切断する。
 - オプションダイアログボックスの「テキスト・エディタ」内の項目で、チェックボックスをすべてOFFにする。
 - エディタパネル以外のパネルを閉じる。
 - エディタパネル内で開いているファイルのうち、エラーとなった保存対象以外のファイルを閉じる。

- (2) CubeSuite+ のメインウィンドウの幅または高さを変更 (拡大もしくは縮小) してください。

- (3) 再度、ファイルの保存をしてください。

- (4) 上記(3)で、ファイルの保存時にエラーE2000003が出力される場合は、次の手順でCubeSuite+ のメモリ使用量を確認してください。
ファイルの内容は分割してコピーし、外部のエディタに貼り付けて保存してください。
 - (4.1) Windowsのタスクマネージャで、CubeSuite+ のプロセス情報を参照し、下記のメモリの値が500 MB以下であることを確認してください。
 - 仮想メモリ (WindowsXPの場合)
 - コミットサイズ
(Windows Vista、Windows 7およびWindows 8の場合)

(4.2) CubeSuite+ のエディタパネル上に残っているファイルの内容を 6,400,000文字未満の範囲で選択して、コピーしてください。(注)

注: 1行が、100文字~200文字程度の場合、32,000行~64,000行の範囲で選択して、コピーしてください。

(4.3) 外部のエディタに、コピーした内容を貼り付けてください。

(4.4) コピーおよび貼り付けを繰り返し、CubeSuite+ のエディタパネル上に残っている内容をすべて、外部のエディタに貼り付けた後、外部のエディタでファイルを保存してください。

1.4 恒久対策

CubeSuite+ V2.01.00 で改修します。

2. RL78/G14グループマイコンでサブクロック動作時の高速オンチップオシレータ停止に関する注意事項

2.1 該当製品

- RL78,78Kファミリ用Cコンパイラパッケージ (統合開発環境つき)
- 無償評価版CubeSuite+

上記のうち、CubeSuite+ 共通部分 V1.00.00 ~ V2.00.00である製品。

2.2 内容

RL78/G14グループマイコンで、2.3項の発生条件をすべて満たした場合に、「プログラムの実行に失敗しました。」とエラーが表示されます。

2.3 発生条件

以下の条件をすべて満たす場合に発生します。

- (1) デバッグ・ツールのプロパティパネルで、「接続用設定」タブの「モニタ・クロック」を「システム」に設定している。
- (2) 高速オンチップオシレータを64 MHz、もしくは48 MHzに設定している。(備考参照)
- (3) 高速オンチップオシレータが停止している。
- (4) システムクロックにサブクロックを設定している。
- (5) ユーザープログラム実行中に、上記(2)~(4)を設定し、ブレーク後、再度プログラムを実行する。

備考: 高速オンチップオシレータの周波数は、ビルド・ツールのプロパティパネルにおいて、「リンク・オプション」タブの「ユーザ・オプション・バイト値」で設定します。

2.4 回避策

プロパティパネルの「接続用設定」タブの「モニタ・クロック」を「ユーザ」に設定してください。

注意: この設定変更によりブレーク中にCubeSuite+ でのデバッグ操作レスポンスが落ちる場合があります。

2.5 恒久対策

今後のバージョンで改修を検討中です。

3. データフラッシュメモリ読み出し時にプログラムをステップ実行する場合の注意事項

3.1 該当製品

- RL78,78Kファミリ用Cコンパイラパッケージ (統合開発環境つき)
- 無償評価版CubeSuite+

上記のうち、CubeSuite+ 共通部分 V2.00.00である製品。

3.2 内容

全てのRL78ファミリマイコンで、E1エミュレータ使用時にソースパネル上でプログラムをステップ実行する場合、C言語ソースの1行に下記の命令1 および命令2の両方が含まれると、命令2が実行されない場合があります。

命令1: データフラッシュメモリの読み出し命令

命令2: 以下のいずれかの分岐命令

- コール・リターン命令
- 無条件分岐命令
- 条件付き分岐命令
- 条件付きスキップ命令

なお、以下のいずれかを使用している場合は、本問題は発生しません。

- データフラッシュメモリ制御にEEPROMエミュレーションライブラリを使用している場合
- データフラッシュメモリの読み出しにフラッシュデータライブラリの読み出しコマンド (コマンド名: PFDL_CMD_READ_BYTES) を使用している場合

3.3 回避策

3.2項の命令1 および 命令2を含むCソースの行をステップ実行する際は、逆アセンブルパネル上でステップ実行してください。

3.4 恒久対策

CubeSuite+ V2.01.00 で改修します。

[免責事項]

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。

© 2010-2016 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.